

哀

西松光治郎氏の逝去を悼む

合資會社西松組社長にして我國土木建築業界に重きをなしてゐた西松光治郎氏は病氣靜養中であつたが舊臘十二月三十一日午後二時狭心症にて遂に逝去された。享年六十三。

葬儀は西松組社葬として、一月六日京都市左京區南禪寺下河原の本邸に於て佛式によりとり行はれたが會葬者一千四百名の多數にのぼり近來の盛儀であつた。

西松氏は我國有鐵道建設工事に對し20數線の請負施工を完成した功勞者で、温情ある人格者として斯界に聲望あり、土木建築業聯合會並に土木業協會理事として業界に盡した功績亦少なからざるものありその急逝は各方面から惜しまれてゐる。

内山熊八郎氏を惜しむ

合資會社清水組専務理事内山熊八郎氏は豫て病氣療養中のところ一月一日遂に永眠された。享年五十四。

氏は新潟縣柏崎町の人、早く東都に笈を負ひ明治33年築地工手學校建築科を卒業し、35年清水組に入社し、大正14年本店工事長兼大阪支店長となり、昭和2年同組の職制變更に伴つて本店工事部第一部長兼大阪支店長、兼京都支店長、同六月理事となり昭和5年に營業部長、常務理事となり同8年専務理事となつた。全く苦學力行の士で、年少の頃現場に捨てゝある古釘を捨てて學費の一端としたと云ふ逸話が殘つてゐる。

五十四と云へば働き盛りであるが今其急逝に遇ひ洵に哀惜極りないものがある。因に氏は東京に於ける新潟縣人會の理事長として同會二萬の會員に敬慕されてゐた。

竹内季一博士の逝去

今春五日以來風邪氣味であつた竹内季一博士は十一日より腦軟化症となり自宅に療養中であつたが、一月二十五日遂に逝去された享年六十一歳である。

長唄と園藝の外に道樂のなき博士は平素攝生と無

悼

病とな誇としてゐたが、突然の逝去は何人も意外とする處で我技術界のため痛惜に堪へない。

竹内博士は學者肌の努力家で、昨年まで鐵道に關する技術的研究を續け、停車場其他に關する著述もあるが、工事としては京都停車場、京都大津間線路改良、大震災後の東京市の土木工事等に多大の功績を残してゐる。特に鐵道技師として在任中より名古屋高工鐵道教習所、攻玉社工學校等に教練を執り、晩年には武藏高等工學校長として民間専門教育の爲に盡力された功勞も大である。



竹内博士は大阪の人で、明治三十三年京都帝大第一期の土木科出身である。同年鐵道作業局に入り、三十六年鐵道技師に任ぜられ、京都、名古屋等に歴任し、四十年歐米留學を命ぜられ獨逸及び北米に於て鐵道停車場、橋梁等の調査研究をなし四十二年歸朝、大正二年神戸鐵道管理局改良係長となり、同八年五月に門司鐵道管理局工務課長となり、同九年五月にはハンプヤードの論文に依り工學博士の學位を得、同年十一月高等官二等に叙せられた。當時東京市道路局長たりし丹羽御彦博士の懇請により、多年の鐵道生活より轉じて東京市道路局技術長となり、十三年四月まで在職された其後丹羽・加護谷兩氏等と三協土木建築事務所を經營され、傍ら日本工業合資會社、池上電鐵、清水組等の顧問技師となり特に昭和三年以來東京鐵骨橋梁株式會社の理事として斯界の爲に常に研究的努力を拂はれた。

因に葬儀は一月二十七日芝區青松等に於て告別式を舉行され官民多數名士の參列があつた。博士には三男一女があり、嗣子雄一氏は法學士で京成電軌鐵道會社に勤務中である。